

令和6年度 中央区立有馬幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員:中野耕佑、眞野勇志、関根佳代子、宮崎弘次、森 功次、中多宏之、坂野泰士、宇多清二、志関亜紀子、菊池理良

報告書作成者:神山安弘

評価時期 令和7年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「生活や遊びに主体的に関わり、様々な活動を楽しむ」について

評価指標①「幼児が自ら進んでうがい・手洗い・遊んだ後の片付けなどを行っているか。」は保護者の93.7%、評価指標②「身の回りの遊具や用具などを用いて作ったり遊んだり表現したりすることを楽しんでいるか。」は保護者の96.2%、評価指標③「教師や友達に自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしているか。」は保護者の91.2%が、「十分達成している」「達成している」の高い評価である。また、「全体の評価1」「幼児は幼稚園に行くことを楽しみにしている。」は98.1%、「全体の評価5」「幼児は明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている。」は93.7%が、「よくあてはまる」「あてはまる」の評価である。幼児が「遊んだり表現したりすること」や「自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたり」することは幼稚園教育の根幹である。重点目標1「様々な活動を楽しむ」の達成に向けた教育活動を意図的・計画的に実践したことが、保護者に子どもの姿で理解された成果である。

重点目標2「健やかな体と心を育む」について

評価指標①「幼稚園の遊びや生活の中で、いろいろな体の動きを経験しているか。」は保護者の88.6%が肯定的な評価、11.4%が改善を要する評価である。設問の「遊びや生活の中でいろいろな体の動きを経験」の『体の動き』の文言は、保護者が幼児の「具体的な姿」をイメージすることが難しい結果であると考えられる。保護者に設問の意図や設問の文言を明確にするなど「分かりやすい」アンケートするための検討を期待する。評価指標②「季節の草花や生き物などを見たり触れたりすることを通して、身近な自然に親しんでいるか。」は保護者の94.9%の肯定的な評価である。また、「全体の評価6」「幼稚園は、幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験にすすんで取り組んでいる。」は94.9%の肯定的な評価である。本園の環境を生かした栽培活動や収穫した野菜でパーティーなど、身近な自然に触れる幼児の姿を保護者と共有できた成果である。

重点目標3「幼稚園と保護者の連携を進める」について

評価指標①「園便りや園務支援システム『ルクミー』、全体保護者会や学級懇談会、行事への参観・参加などを通して、園児の様子を知ることができたか。」は保護者の87.3%、評価指標②「連絡カード(随時)・個別降園(隔週)・園長相談日(月2回)・個別の相談(随時)等を生かして、必要な連絡を取り合うことができたか。」は保護者の87.4%が肯定的な評価である。また、「全体の評価11」「相談がしやすい」86%、「全体の評価12」「連絡や情報の提供」84.8%、「全体の評価15」「幼稚園公開や情報発信」89.9%が肯定的な評価である。どの回答も高い肯定的な評価だが、他の設問の肯定的な評価より数値が低い結果であり、「改善を要する」の回答もある。本園が目指す幼稚園像「みんなでつくる楽しい幼稚園」の実現に向け、幼稚園と保護者が一層の連携を深めるために、園として「発信」と「受信」の在り方について検討することを期待する。

2 今後の改善に向けた意見

・保護者・教員アンケートにおいて全ての項目において高い評価を得ている。高い評価の要因についてアンケート結果等をもとに分析・考察し、今後も継続して教育活動の質の向上を図ることを期待する。

3 その他の意見

・本園の特色の一つである併設する小学校との「連携や交流」など、多様な教育活動を創意工夫し特色ある教育活動の推進を期待する。

・保護者アンケートの回収率は約83%である。園は保護者と連携し回収率の向上に努めることを期待する。